

浜田圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
浜田-1	浜田版林業ビジネスモデル構築プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・森林境界の明確化作業により詳細な森林情報を把握できた区域を中心として森林経営計画が策定された。 ・森林資源情報の効果的な活用と共有化についてIT機器による実証を行った。 	木材生産団地(森林経営計画作成)からのスギ・ヒノキ木材生産量(m ³)	8,500	8,616	101%
		<ul style="list-style-type: none"> ・燃料用バイオマスの含水率追跡調査の試験結果を生産事業体に提供したことにより効率的な乾燥につながることを期待できる。 	モデル団地における利用間伐の労働生産性(m ³ /人日)	6.2	6.8	110%
		<ul style="list-style-type: none"> ・県、大学、森林組合、機械メーカーが連携協力して、バイオマスチップ生産の作業システムを含む車両系、架線系作業システムを組み合わせた実証を行った。 ・県の森林施業プランナー育成研修に2名の参加、研修終了後はプランナーとして森林施業プランの作成、森林経営計画策定者として期待される。 ・事業体から各種オペレーター研修等に参加があり、知識技術の向上が見込まれる。 	森林施業プランナー(累計:人)	3	8	267%
浜田-2	浜田地域産材の加工体制強化と需要拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・行政建築部局と林業関係者の公共建築への地域材利用についての意識共有を図るための研修会を企画し、地域材を活かした公共建築について理解を深めた。 ・あさひ荘で木材利用に関するアンケート実施。意識啓発に一定の効果認められた。今後も普及効果が期待される。 ・西部財団の木材乾燥機更新の検討により、浜田地域の乾燥材供給体制についての議論が進んだ。 	木材協会浜田支部製材製品生産実績(地域材)(m ³)	1,320	1,482	112%
		<ul style="list-style-type: none"> ・しまねの木建築利用促進事業のPR、異樹種積層材利用の家具製作、くんえん材の販売促進活動に取り組んだ。 ・地域材需要拡大の各取り組みを販売実績につなげる必要がある。 ・製材用原木に関する浜田地域の製材所の意向を概ね把握できた。 ・製材所の意向に沿った造材・採材及び供給について、実現に向けた供給側との協議を行う必要がある。 	木材流通センター原木取扱量(m ³)	8,400	8,836	105%
浜田-3	原木乾しいたけの生産振興プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・原木供給については、地元産原木より他地域産(九州)原木が多い状況にあり、自伐原木の生産促進とヴァーテックスの担い手対策による地元産原木の供給拡大の取り組みを進める必要がある。 ・将来に向けた原木確保のために、継続した萌芽更新等による原木林造成の検討、原木林造成計画を作成する必要がある。 ・労務軽減化対策としての旭町並びに弥栄町に設置した人工ほだ場での栽培を開始した。今後は生産実績のなかでの課題を整理し、対策を実施する必要がある。 	乾しいたけ生産量(t)	8.6	6.0	70%
		<ul style="list-style-type: none"> ・担い手対策については、新規参入候補者の中から販売意欲がある方をリストアップした。候補者のニーズを把握して、新規参入向けの入門研修会と後継者向けの生産講習会の効果的な実施が必要である。 ・品質向上については、優良生産者等の生産技術普及の手法を確立する必要がある。 ・有利販売については、H26学校給食への乾しいたけ供給に向けた体制の構築を行った。 	乾しいたけ生産者数(人)	88	73	83%